

地域のみんなですつくる

住んでよかつた 住み続けたいまち



自治会や公民分館、校区福祉委員会などの団体や、環境問題に取り組む市民グループ…。地域にはさまざまな団体があり、それぞれの目的に沿って活発に活動しています。それらの団体が連携して、これまで取り組みにくかった課題の解決につなげている地域もあります。住民自身による地域の運営「地域自治」は、これからの地域のあり方を考える上でとても大切なものになっています。

新千里東町地区での取組みを通して「地域自治」のこれからの姿を探ります。

(コミュニティ政策室)

新千里東町地区について

市の北東部、千里ニュータウンの一角にあり、人口は約7千700人(4月1日現在)。高齢化が進み、65歳以上の高齢者の割合は29・6パーセント。全域が集合住宅で、10年ほど前から建て替えが進んでおり、新しい住民の数も増えています。

地域の安全・安心、高齢者の福祉、住民の交流、子育てなど、地域課題の解決に多くの住民が協力しあい、「住んでよかつた」「いつまでも住み続けたい」まちにしよう、と、さまざまな取組みを行っています。

平成21年度(2009)から、市が進める地域自治の仕組みの検討にも協力し、市との意見交換を続けています。



地域ボランティアが運営する「ひがしまち街角広場」子どもから高齢者まで、だれでも気軽に立ち寄れる憩いの場として活用されています。



Table with multiple columns and rows, likely a schedule or list of events.

地域情報を一つの新聞にして発信

新千里東町地区では2か月に一度、地域の新聞「ひがしおか」が全世帯に配布されます。A4判8ページの誌面には、行事の報告や写真、催しのお知らせなど、さまざまな団体の活動や地域の話題がきめ細かく掲載されています。新しい住民の人たちにもまちへの愛着を持ってもらえればと、まちの施設を紹介しているほか、小さな歴史を掘り起こす連載コーナーもあります。「ひがしおか」は、東丘公民分館、東



丘校区福祉委員会、豊中地域防犯協会東丘支部、新千里東町自治会連絡協議会の4団体が費用を出し合い、平成13年1月から合同で発行している新聞です。それまでは各団体がそれぞれの広報誌を発行していました。「予算に限りがあるので各団体とも発行はそれぞれ年2回だけ。半年に1回ではタイムリーな情報を発信できず、住民にとっては細切れの情報がばらばらに届くので分かりづらかったでしょうね」。そう振り返るのは、合同新聞の創刊に携わったひがしまち街角広場運営委員長赤井直さん。合同で発行するようになってからは、記事の感想が寄せられるなど、住民に読んでもらっているこ



「ひがしおか」の編集風景

とを実感するそうです。また、1団体あたりの制作費用も年間20万円から13万円に抑えることにもつながりました。「合同で発行できたのは、団体同士がいつも協力して活動してきたという基礎があったから。団体の新聞ではなく、『住民の新聞』にしていこうことをめざしています」と東丘新聞委員会編集長の山田寿太郎さん。さらに、校区福祉委員会長の安井準一郎さんは、「協力しあってどう内容を充実させていくかが課題。地域に関心を持っていない人たちに振り向いてもらうには、どうすれば良いかを考えていかないと」と付け加えます。

地域と市が協働で維持管理している千里東町公園 (写真下と右)



新千里東町のホームページ



情報満載の ホームページを 開設

新千里東町では、平成19年11月にインターネットで地域情報を発信するホームページも開設。1か月に平均2千回閲覧されています。

ホームページを開設したのは、現在、公民分館長を務める寺村三郎さん。7年前、同地区に引越してきた寺村さんが自治会連絡協議会の会長を引き受けたとき、地域の団体や成り立ちがまったく分からず、話についていけなくて困惑したことがきっかけでした。「新しい住民が地域活動に参加したいと思ったときに役立つホームページを作ろうと考えました」。

また、新たな人材を発掘しようと、ホームページの編集委員を公募したところ、地域活動に初めて参加する人たちが応募してくれました。「住民の中にはさまざまな技術を持った人が必ずいます。必要なのは発掘する努力」と寺村さん。

ホームページができてからは、地域の取組みに対する子育て世代の保護者の関心も高まっています。「この世代の人たちは、東町だけでなく、ほかの

地域の同世代の人たちとの交流も盛ん。東町での取組みを紹介してくれていて、ほかの地域でも『東町に倣え』とばかりに注目してくれているようです」と赤井さん。新聞とホームページが、地域をゆるやかにつなぎ、新しい仲間づくりにも一役買っています。

地域のことは 地域のみんで 考える

このほか、住民の努力と連携でさまざまな課題を解決する仕組みも取り入れています。

例えば、千里東町公園の施設について、公衆トイレの設置や街灯の明るさといった要望が住民から市に別々に出されたことをきっかけに、地域の公園について地域全体で話し合おうと、平成19年、自治会連絡協議会に「公園をよくする会」を設置。「ひがしおか」などで参加者を募り、意見交換と現地調査を経て整備計画案を作成しました。その案に基づいて市と協議し、草木の保全など、だれもが賛同する案件は早期に実施したほか、街灯を明るくすることは通行人には望ましいが、近隣の住人にとっては明るすぎて眠れない、といった利害が対立している課題につ

いては、会が中心となって住民の意見を取りまとめ、対応を検討することになりました。

それ以降は毎年度、公園の整備内容を市と協議し、施設の改修は市が実施、竹の間伐作業は住民も協力するなど、地域と市が協働で維持管理しています。

地域活動に 若い世代の力を

しかし、地域活動の担い手の高齢化は否めません。現在の最大の課題は、より多くの人たち、とりわけ若い人たちに、いかにして地域活動に参加してもらうかです。

「ひがしおか」創刊から10年。この間に新聞制作を取り巻く環境も大きく変わりました。「編集委員は日進月歩のパソコン技術と格闘する日々でした。パソコン操作に習熟している若い人が参加してくれたら、どんなに助かることか」。新聞編集委員の柳原一之さんの言葉は切実です。

「より多くの人に参加してもらうには、できる人が、できるときに、無理なくできる地域活動であることが必要」と、地域防犯協会東丘支部長の山地光男さん。「一度参加した人が『楽しかった』

『また参加しよう』と思えるような活動現場の雰囲気づくりも大切ですね。

11月には、千里中央地区の商業施設「セルシー」の協力のもと、自治会連絡協議会を中心に4団体合同で初の「東町フェスタ」を開催します。「遊びや食べ物など、お祭りの要素を取り入れながら、東町の地域の魅力を感じてもらえる内容にしたい。そのためには、子育て中の人や高校・大学生などの若い世代に運営を担ってもらえたら」と自治会連絡協議会長の河野希望さんは企画の一端を明かします。これまで地域活動に縁がなかった人たちに、フェスタをきっかけに地域活動にかかわってもらえればと願います。

「理想は、住民全員が実行委員になってくれること。東町の盛り上がり千里ニュータウン全体の活性化に波及し、全国各地の疲弊しているニュータウンに再生の道を示すことができれば」と河野さんの夢は広がります。



昨年の夏祭り(写真上)と団地祭り(下)

地域の特性に合った自治の仕組みをつくるために

みんなの力を結集してより良いまちに

新千里東町地区では、みんなが住みやすいと思う地域、このまちに住んでみたいと思われるような地域をめざして、地域の団体や住民と一緒に考え、協力して活動しています。それが新たな活動を生み出し、活動への参加者を増やすことにつながります。また、このような取組みの積み重ねが、地域自治を進めていく大きな力になるのです。

自治基本条例による地域自治の仕組みの検討

平成19年に施行した自治基本条例では、このように地域住民自らが地域を良くしていこうとする取組みを推進する仕組みをつくることを定めています。そのため、市は、地域自治システム調査検討委員会(委員長=四日市大学教授・岩崎恭典さん、10人)を設置し、どのような仕組みが必要かを検討しているところです。同委員会がこのほど発行した中間報告書に基づき、市民の皆さんと地域の自治について意見交換し、今後の検討に生かしていきます。同報告

書は7月1日(休)から市政情報コーナー、コミュニティ政策室、市ホームページでご覧になれます。

座談会「これからの近所づきあいと住みやすい地域づくり」

◎とき・ところ／

7月22日(木)18時30分～20時30分
千里公民館(新千里東町)

7月24日(土)10時～12時
蛍池公民館(蛍池中町)

7月27日(火)18時30分～20時30分
庄内公民館(三和町)

8月1日(日)14時～16時
中央公民館(曽根東町)

◎定員／30人

◎申込み／1週間前までにコミュニティ政策室。電話可。先着順

◎保育／1歳～小学3年生、1人200円。1週間前までに要申込み

☎コミュニティ政策室 ☎6858-2727

市役所と地域の新しい関係(中間報告より)

市役所

- ・地域を担当する窓口を開設
- ・地域の情報共有や団体の連携など、地域の取組みを支援
- ・地域活動に役立つ情報の提供や講座の開催
- ・補助金制度の見直し など



支援

協働

地域

A団体



若い人にも参加してもらいたいなあ

Bさん



自分たちが住む地域に興味はあるけど地域団体に所属するのはちょっと…

Cさん



子どもの安全や防犯について心配だけど、どこに相談したらいいのかわからない

それぞれに頑張って活動しているけれど、団体や住民の課題はさまざま
まずは、地域の団体や住民がお互いを知り合い、地域の課題を共有することから

地域を良くするために、地域の人たちが一緒に考え、決めて、実行していく仕組みをつくっていく